

H I C医療通訳ボランティア派遣事業の運用計画の一部変更

令和元年9月 ひろしま国際センター

1 運用計画（変更後）

正式運用に向けた準備運用	・ 実証（試験）運用 （⇒ 運用開始後概ね1年を事業の普及・浸透を図るための期間とする。） ・ 検討運用 （⇒ 正式運用に向けた検討のための期間とする。）
正式（本格）運用	令和3年4月1日から

2 準備運用（実証運用及び検討運用）の計画

(1) 派遣対象の地域

地 域	正式運用に向けた準備期間	
	実証期間	検討期間
広島市	H30年11月～R元年11月末	R元年12月～R3年3月末
廿日市市	H31年4月～R2年3月末 (保健機関は平成30年11月から)	R2年4月～R3年3月末
県東部4市2町	R元年9月～R2年8月末	R2年9月～R3年3月末
東広島市	R元年10月～R2年9月末	R2年10月～R3年3月末

※正式運用に向けた準備期間中、この事業の趣旨に賛同し、この事業の利用を希望する医療機関等がある地域に対しては、医療通訳ボランティアを派遣する方向で検討する。

(2) 派遣依頼者の費用負担の軽減

正式運用に向けた準備期間（実証期間及び検討期間）においては、ボランティアに対する協力金及び交通費相当額は、ひろしま国際センターが全額負担する。

(3) その他

医療機関や保健機関等からの意見・要望は、正式運用に向けた制度見直しに反映させる。

【参考】医療通訳ボランティアに対する協力金及び交通費相当額

医療通訳ボランティアに対する協力金	1回当たり2,000円とする。なお、医療機関等における活動時間が2時間を超える場合は、1時間毎に1,500円を加算する。
医療通訳ボランティアの交通費相当額	派遣先医療機関等が医療通訳ボランティアの居住地と同一の市（町）である場合は、1,000円。なお、派遣先医療機関等が医療通訳ボランティアの居住地と異なる市（町）である場合は、実費を基本としてH I Cと派遣依頼者が協議し額を定める。

※医療通訳ボランティアへの費用の支払いは、H I Cが行います。